

平成24年度 山口県教育委員会と山口県PTA連合会との懇談会報告

- 1 日時 平成25年2月1日（金）15:00から17:00
- 2 会場 山口県教育会館（3階 第4研修室）
- 3 参加者 県教委 14人 県P連関係者 27人

4 懇談会

(1) 開会行事

- 山口県PTA連合会会長あいさつ（林会長）
本日は、しっかりお話を聞かせていただくとともに、私どもも意見を出させていただき、実りある懇談会にしたい。
- 山口県教育委員会教育長あいさつ（田邊教育長）
子どもたちの健やかな成長のためのよりよい環境づくりへの尽力と昨年11月に開催された「第42回日本PTA中国ブロック研究大会山口県しものせき大会」での並々ならぬ尽力等、山口県PTA連合会の活動に感謝している。教育懇談会も14回目となるが、直接意見交換することは、両者が一体となって取組を進めていく上で意義深い。
- 教育懇談会趣旨説明（有馬教育問題委員長）
様々な課題の解決を図り、子どもの健全育成を進めていくために、学校・家庭・地域社会がさらに連携を深め、この教育懇談会を契機にPTAと教育行政が一体となった取組を一層充実させ、行きたい学校帰りたい家庭をめざして、PTA活動の推進を図りたい。



(2) 懇談（進行：松永教育問題副委員長）

① 県教育委員会所管事項説明

ア 児童生徒を取り巻く環境と健全育成について

◎県教委より、いじめの現状と対策・改善策について説明

○現状

- いじめの認知件数は近年減少傾向にあったが、平成24年8月末の緊急調査では、小学校、特別支援学校では昨年度1年間の認知件数を超え、全体でも昨年度1年間の値に迫っている。認知件数の増加の原因としては、年度初めから学校の安全配慮義務の意識向上に取り組む研修、家庭向けいじめ対応リーフレットの全家庭配布等の取組がられる。
- 中学校入学を境に認知件数が増加するいわゆる「中1ギャップ」が見られる。
- いじめの態様は、言葉による「冷やかしの、からかい、悪口、脅し文句」が最も多く、次に「軽くぶつかる、叩く、蹴る」が続く。

○対策・改善策

- 「いじめは人間として絶対に許されない」という意識の徹底等による未然防止への取組の充実
- 「いじめはどの子にも、どの家庭でも起こりうる」との認識の下での認知力・対応力の向上
- 家庭・地域・関係機関との緊密な連携

・未然防止の取組

心の教育、道徳教育の推進、10月の「いじめ防止・根絶月間」の取組の充実

・早期発見・早期対応

いじめの認知を高める取組、教育相談の充実、校内での対応力の向上、専門家や関係機関等との連携強化

・緊急対応

学校サポートチームの派遣、学校メンタルサポート事業、中立的立場の専門家を加えた調査委員会の準備

◎県教委より、携帯電話に関わる問題、対策等について説明

○携帯電話に関わる問題

- ・携帯電話等を介したいじめ平成22年度で減少したものの、平成23年度で増加している。
- ・携帯電話にかかる犯罪やトラブル事例
出会い系サイト等に関連した犯罪、スマートフォン特有のトラブルなど

○対策

- ・情報モラル教育等による未然防止やネット問題啓発の充実
- ・啓発資料「ネット・ケータイ問題への対応について」「大丈夫ですか？お子さんのケータイ」の活用。危機意識の向上等、家庭でも御協力を願いたい。
- ・関係機関との連携
ネットアドバイザー（子どもと親のサポートセンター）との連携、警察との「ネット問題組織的対応システム」による連携

◎県教委より、災害に対する防災教育、安全確保の体制づくりについて説明

○全県テーマによる防災教育の推進

平成24年度全県共通テーマ 「生きる力」を育む防災教育の推進

○防災教育の現状

- ・自らの命を自ら守ることができる「防災対応能力」を育成する。
- ・「正しく知る」力の育成
各教科等における防災にかかる内容の学習、専門家と連携した防災出前授業、大学の専門家と連携した「実践的防災教育」の実施。防災教育テキスト「自然災害から自分の命を守るために」を作成し、県内全ての児童生徒に配付。
- ・「的確に判断できる」力の育成
「危機予測学習(KYT)資料集」の配付・活用
- ・「主体的に行動できる」力の育成
「防災訓練事例集」の作成・配付

○防災管理体制の整備

- ・「応急対策計画作成のガイドライン」の作成
- ・「学校の防災に係る点検項目」の作成
- ・県内全学校に防災アドバイザーを派遣
- ・「学校危機対応演習資料」の作成
- ・防災教育研修会の開催

イ 次期山口県教育振興基本計画の策定について

◎県教委より、次期山口県教育振興基本計画の策定について説明

○策定の趣旨

平成10年に策定した「山口県教育ビジョン」及びその実行計画である「夢の実現チャレンジプラン」に基づき各種教育施策を推進しているが、いずれの計画も本年度までの計画期間となっており、次期計画の策定が必要。

計画の策定に当たっては、これまでの取組や課題、教育を取り巻く環境変化等を踏まえるとともに、現在国が策定中の「第2期教育振興基本計画」を参酌しながら検討することとしている。

○計画期間 平成25年度から29年度

○本県教育の目標

- ・教育目標（案）
未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成
- ・目標実現の視点（案）
○3つの力(学ぶ力、創る力、生き抜く力) ○3つの心(広い心、温かい心、燃える心)

○施策の展開

- ・目標達成に向け、主要な施策と主な取組を体系的に整理し総合的に推進
- ・緊急・重点課題に対応するため、10のプロジェクトを推進
 - 1 グローバル人財育成プロジェクト
 - 2 ものづくり人財育成プロジェクト
 - 3 確かな学力育成プロジェクト
 - 4 豊かな心育成プロジェクト
 - 5 子ども元気創造プロジェクト
 - 6 魅力ある学校づくりプロジェクト
 - 7 安心・安全な学校づくりプロジェクト
 - 8 教職員人財育成プロジェクト
 - 9 地域ぐるみの教育推進プロジェクト
 - 10 世界スカウトジャポリー等開催プロジェクト

ウ 児童生徒の学力向上について

◎県教委より、学力向上に向けての取組の様子や現状について説明

○学力向上について

- ・今年度の全国学力・学習状況調査では、小・中学校とも平均正答率が全国平均を上回っている。
- ・算数の「割合」や「分数」など、特定の学習内容を中心に、基礎・基本の一層の定着を図る必要がある。
- ・条件に沿った記述、根拠を明確にした説明など、知識・技能を活用する力を伸ばす必要がある。
- ・山口県の子どもは自分で計画を立てて家庭学習をしている子どもの割合が全国平均より低い。

○やまぐち学習支援プログラムについて

- ・「学力状況確認システム」により、授業で実施した問題の結果を入力すれば、正答率がわかり、県平均との比較ができ、学力の定着度をグラフで確認できる。
- ・「やまぐち学習支援プログラム (<http://shien.ysn21.jp/gakushi/>) 家庭版」では、学校の復習や予習ができる。親子で取り組めるいろいろな問題も掲載しているので、積極的な活用をお願いしたい。

② 山口県PTA連合会の取組について

◎山口県PTA連合会より、学力向上に向けての取組の様子や現状について説明

○「いじめ撲滅宣言」について

- ・家庭にも問題があると考え、親子でしっかり向き合ってもらいたいとの願いを込めて「いじめ撲滅宣言」を県P連として発表し、保護者へも意識啓発。

○総務委員会の取組について

- ・ドリームチャレンジャー2012in徳地、in萩を実施。
福島県南相馬市から8人の子どもを迎え、県内40人の子どもと交流。
- ・共済事業についての検討～本年度諮問委員会を設置。

○健全育成委員会の取組について

- ・いじめ防止標語コンクールを実施。
- ・「第3日曜は『家庭の日』」を推進。

○広報委員会の取組について

- ・PTA広報紙の作り方研修会を開催。
- ・広報紙コンクールを実施。
- ・広報紙「おやごころ」を発行。(年2回)

○家庭教育委員会の取組について

- ・家庭教育研修会を開催。
- ・子育て親育て研修大会を開催。
- ・「たのしい子育てキャンペーン」として、三行詩コンクールを実施。

③ 協議

○児童生徒を取り巻く環境と健全育成について

(県 P) 親が子どものよき手本となっていない。親同士の横のつながりも必要である。

(県 P) 土曜日授業は考えているか。

(県教委) 現在の週5日制は法で定められているものである。土曜、日曜は地域行事への参加や体験学習に使うというのが本来の趣旨である。趣旨に沿った形で授業をすれば問題ない。判断は各市町教委である。

(県 P) 健全育成のためには、家庭や地域のかかわり方も大切である。県教委が推進している「地域協育ネット」などを通じて、取り組んでいくことも必要ではないか。

(県教委) 「地域協育ネット」の実践協力校区での取組を紹介してほしい。

(県 P) 「地域協育ネット」の中で、乳幼児の早い時期からの教育支援を行っている。まずは、コーディネーターの養成が必要であるが、学力向上や規範意識の向上への取組もやらなければならないと考えている。

○次期山口県教育振興基本計画の策定について

(県 P) <子どもたちの育ちに関する課題>

- ・中1ギャップが課題である。
- ・大人が手本として背中を子どもに見せることが大切である。
- ・すぐキレやすく、我慢する心、耐える心が不足している。
- ・自尊感情が育っていない子どもが増えてきている。
- ・家庭でのコミュニケーションが不足しており、自分の思いを言葉に出して相手に伝えることが訓練されていない。

<子どもたちに身に付けてほしい「力」・「心」>

- ・自信をもって自分の意見を伝えることができるためのコミュニケーション能力
- ・友人や親、先生、地域の人とかかわり合える力
- ・一人でやり遂げることができる力
- ・自主性
- ・社会と共生する力
- ・思いやりの心、他者へのいたわりや慈しみの心
- ・「責任感」を入れていただきたい。社会で生きる上で「責任」は必要だと思う。
- ・3つの心の中に「感謝の心」を入れていただきたい。人が生きていく上で「ありがとう」と感謝することは重要だと思う。



(県教委) いただいた意見を踏まえて今後検討していきたい。

○児童生徒の学力向上について

(県 P) 「やまぐち学習支援プログラム」が家庭に十分伝わっていない。学校などによりなどで知らせるなど工夫をしてほしい。

(県教委) これまでもPTA連合会総会等で紹介しているが、引き続き、市町教委や学校と連携しながら、様々な機会を通じて、十分な周知を図っていく必要があると考えている。

(県 P) インターネットがない家庭もある。「やまぐち学習支援プログラム」を活用したくても、できない子どもがいるので、そのあたりの対応もお願いしたい。

(県教委) 学校によっては印刷し自由に取れるようにしてある。学校では、申し出があれば、プリントし渡すようにしている。

(県 P) 「やまぐち学習支援プログラム」の質問文がわかりにくいもの等があった。

(県教委) 問題等の見直しを進めているが、連絡をいただければ検討する。

(3) 閉会行事

山口県PTA連合会副会長あいさつ (田中副会長)

今後も県教育委員会と県PTA連合会が課題を共有し、解決に向けて密接な関係をつくっていききたい。今後ともこの懇談会をよろしくお願ひしたい。